

2023年度 第3四半期 決算概要

2024年2月7日

沖電気工業株式会社

2023年度 第3四半期累計 決算の概要

- 前年比 大幅増収・増益。
- サプライチェーンによる生産影響からの回復及びエンタープライズソリューションの大型案件の出荷本格化により、増収、増益幅拡大。
- 四半期純利益は為替差損の減少、税金等良化も加わり増益。

(単位：億円)	23年度 実績	22年度 実績	前年比
売上高	2,866	2,566	+300
営業損益	58	△48	+106
経常損益	48	△79	+127
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	20	△116	+136
USD平均レート (円)	143.3	136.5	+6.8
EUR平均レート (円)	155.3	140.6	+14.7

- 第3四半期累計は売上高2,866億円、営業利益58億円、四半期純利益は20億円となりました。
- 売上高は生産の正常化と大型案件の展開の本格化により、前年比300億円の増収、年間計画に対しても7割弱の進捗となりました。
- 営業利益も物量の増加を受け、前年比106億円の増益、四半期純利益は前年同期と比較して、為替差損が減少したことや税金等調整額の良化により136億円の増益となりました。
- 為替レートはUSD 143.3円、EURは155.3円となっています。

2023年度 第3四半期累計 セグメント別売上高/営業利益

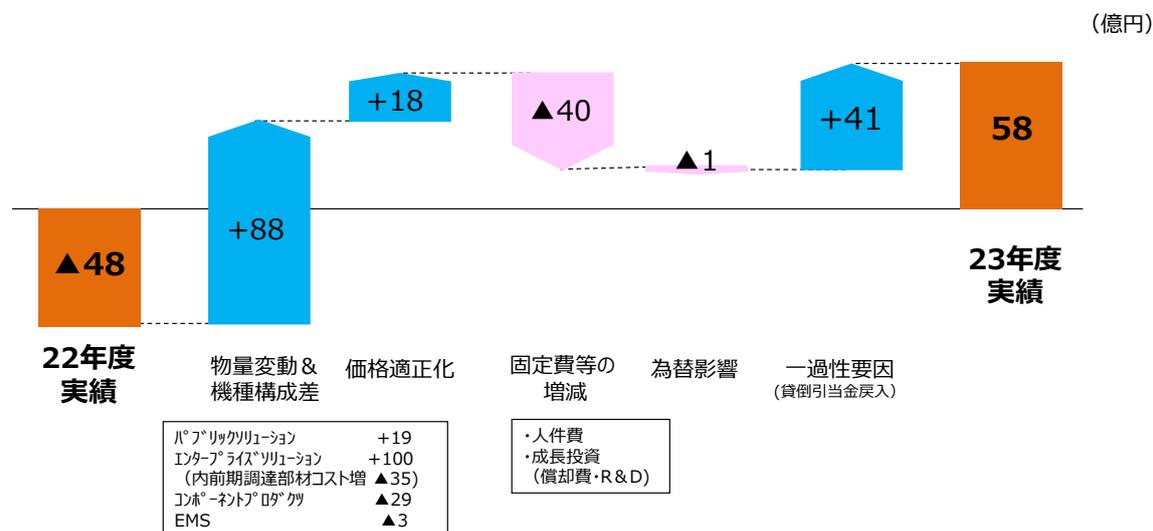
- パブリックソリューション、エンタープライズソリューションで増収・増益。

(単位：億円)			23年度 実績	22年度 実績	前年比
パブリック ソリューション	売上高		638	620	+18
	営業利益		6	△6	+12
エンタープライズ ソリューション	売上高		1,155	775	+380
	営業利益		105	△26	+131
コンポーネント プロダクツ	売上高		534	623	△89
	営業利益		△3	14	△17
E M S	売上高		536	544	△8
	営業利益		8	13	△5
その他	売上高		3	4	△1
	営業利益		△7	4	△11
消去・本社費	営業利益		△51	△46	△5
連結合計	売上高		2,866	2,566	+300
	営業利益		58	△48	+106

- 3ページ、セグメント毎の売上高と営業利益です。
- パブリックソリューションはこの四半期より前年比で増収増益に転じ、またエンタープライズソリューションも第2四半期に続いて増収増益となりました。
- 一方、コンポーネントプロダクツとEMSは減収減益、特にEMSは中国経済停滞による需要減の影響が拡大した結果、この四半期で前年比マイナスとなっております。
- 詳細は後程セグメント別業績でご説明いたします。

2023年度 第3四半期累計 営業利益の変動要因

- 前年の生産減影響からの回復及び大型案件など物量増でプラス。
- 人材投資、成長にむけた投資は着実に実施。



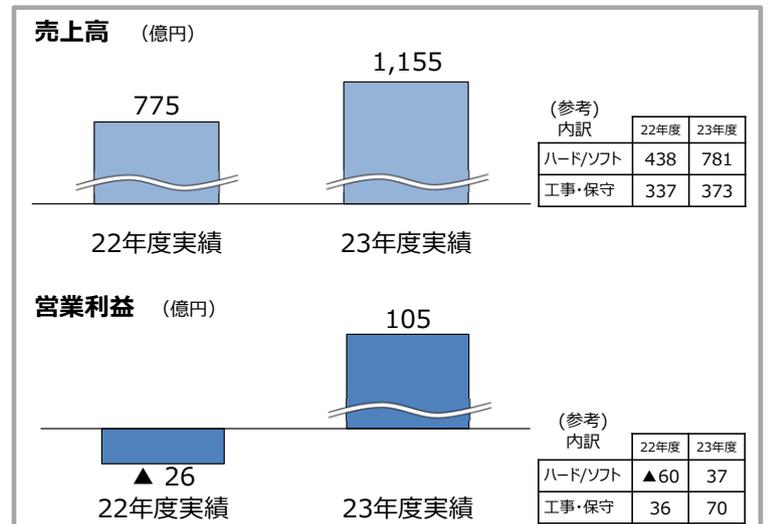
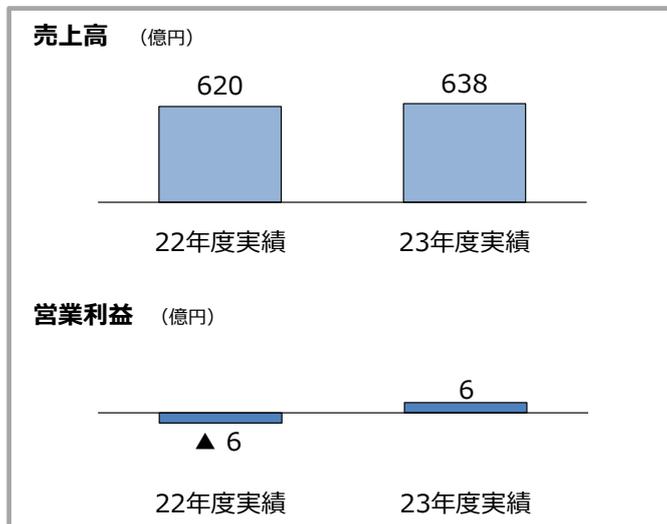
- 4ページ、第3四半期での営業利益のエレベーターチャートです。
- 物量変動・機種構成差でプラスの88億円。セグメント別に見ると、エンタープライズソリューションが売上増に伴い大きく増加しております。パブリックソリューションについても増加している一方で、減収影響の大きいコンポーネントプロダクツとEMSが前年比マイナスとなっています。
- 継続して進めている価格適正化の効果はプラス18億円。
- 固定費等は40億円の増加。内訳を補足致しますと、人的資本および成長投資によりグロスでは57億円の増加、それに対してコストコントロール等で17億円を打ち返し、ネットでは40億円の増加となりました。

パブリックソリューション

- 道路、消防、防災及び特機は堅調。通信キャリア向案件の減少はあるものの、セグメント全体では増収増益

エンタープライズソリューション

- サプライチェーン影響の改善、大型案件により大幅増収。ハード/ソフトの売上増に伴う利益増に加えて工事・保守の収益向上により増益。



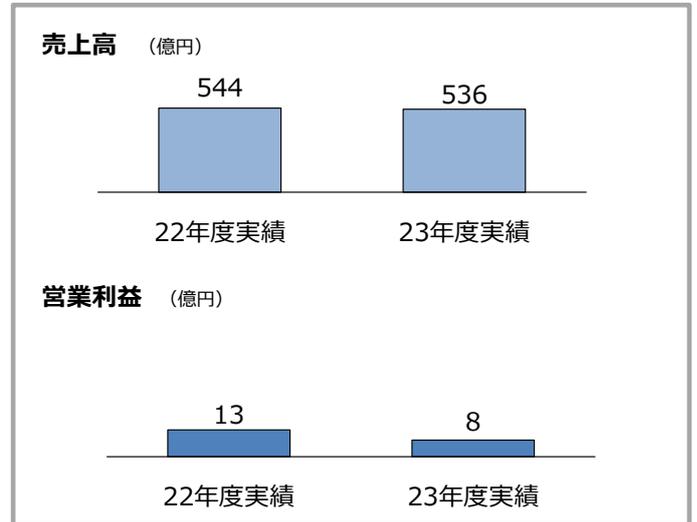
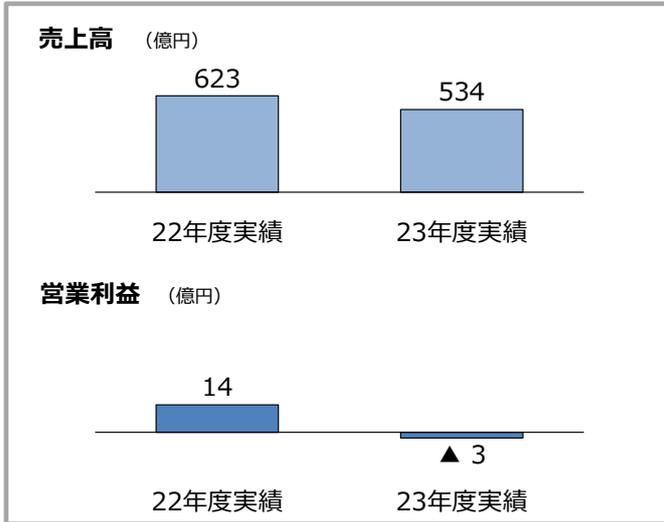
- 次に5ページ、セグメント毎のご説明になります。
- まずはパブリックソリューションです。
- 事業状況としては上期までの傾向と大きく変わらず、道路、消防、防災、特機は前年比増収の一方、ネットワークについては通信キャリア向案件の減少により前年比減収。
- セグメント全体としては特機事業の牽引により、売上高、営業利益とも前年比プラスで着地しました。
- 続いてエンタープライズソリューションです。
- 売上高は全体では前年比380億円の増収。サプライチェーン影響からの回復に加えて、大口ユーザー向ハード機器の売上により大幅に増加、工事・保守部門も引き合いが強く好調に推移しております。
- 営業利益については、ハードの売上増の影響に加えて、工事・保守の収益増もあり、前年比131億円増の105億円となりました。
- 以上がパブリックソリューションとエンタープライズソリューションの第3四半期実績ですが、年間の見通しにつきましては前回に引き続き後程補足させていただきます。

コンポーネントプロダクツ

- 事業状況は上期から大きく変わらず。
IoTはサプライチェーン影響の調達改善等によりプラス。
プリンターは海外での需要停滞による減収影響大きく減益。

EMS

- 半導体市場や中国経済減速によるFA・ロボット市場での需要減による影響が3Qで拡大、減収減益。

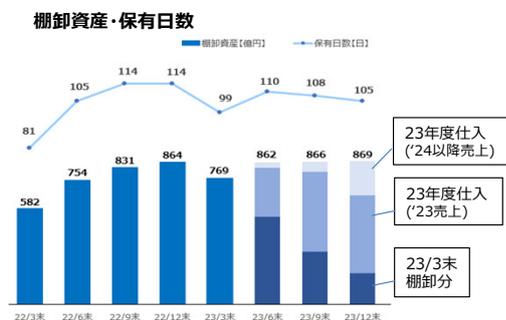


- 6ページ、まずはコンポーネントプロダクツです。
- トレンドとしては上期と大きくかわらず、セグメント全体で減収減益。
- 資料に記載はありませんが、サブセグメントの状況を簡単に補足しますと、プリンター事業は欧州での需要停滞や前期の駆け込み需要の反動による減収影響が大きく減益。コンポーネントプロダクツ全体の減収の大部分がプリンターの減収によるものです。
- IoTは売上高はほぼ前年並み。また営業利益は調達コスト改善もあり前年比では大きく改善しておりますが、セグメント全体を髙上する利益計上はできませんでした。
- 最後にEMSです。
- 残念ながらこの四半期で前年比で、減収・減益に転じました。半導体市場の回復遅れの他、FA・ロボット向売上についても中国経済停滞による需要減の影響が大きくこのような結果となりました。

2023年度 第3四半期 B/Sの概要

- 売上債権は売上増に伴い、9月末対比増加。
- 棚卸資産は4Q売上増への対応のため、6月末以降同水準続くも正常化に向け進捗中。
- 株高による投資有価証券の評価額増等により、固定資産増加。

(単位：億円)	23年 12月	23年 3月	前年度末比
流動資産	2,338	2,302	+36
固定資産	1,708	1,602	+106
資産の部	4,047	3,904	+143
流動負債	2,021	2,053	△32
固定負債	962	859	+103
負債の部	2,983	2,911	+72
自己資本	1,062	991	+71
その他	1	2	△1
純資産	1,063	993	+70
負債及び純資産合計	4,047	3,904	+143
自己資本比率(%)	26.2	25.4	+0.8
DELシオ(倍)	1.2	1.2	±0



- 7ページ、バランスシートです。
- 総資産は前期末から143億増加し、4,047億円。
- 総資産増加の要因は大きく二つ。一つ目は売上増に伴う売掛債権の増加で、二つ目は株高による投資有価証券の評価額増加です。
- 第2四半期決算同様にフォローアップを兼ねて同じグラフを右側に示しています。表右下の通り、売掛債権は売上増を受けて大きく増加しております。また棚卸資産は、右上のグラフの通り、昨年度の在庫は予定通り減少しておりますが、今後の売上増に向けての仕込が増えており、結果として高止まっている状態です。引き続き棚卸の圧縮、特に昨年度分の在庫の解消をよりスピードアップして実現させて行く所存です。
- 自己資本は65億円増加して1,062億円。結果、自己資本比率は26.2%、DELシオは1.2倍となっております。

2023年度 第3四半期 キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローは利益改善により黒字化。
- 運転資本改善により、営業キャッシュフローの更なる創出を目指す。

(単位：億円)	23年度 実績	22年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	13	△144	+157
II 投資キャッシュフロー	△131	△136	+5
フリー・キャッシュフロー(I + II)	△118	△280	+162
III 財務キャッシュフロー	27	262	△235
現金および現金同等物の残高	296	328	△32
固定資産取得額	132	122	+10
減価償却費	102	90	+12

- 8ページ、キャッシュフローです。
- フリー・キャッシュフローは118億円のマイナス。
- 成長に向けた投資を継続している為、フリー・キャッシュフローは依然マイナスとなっております。但し収益改善により営業キャッシュフローは黒字に転化し、前年対比でも157億円の改善。また今期より、中計方針に則り投資を選別して実行していることから、昨年対比で投資キャッシュフローもわずかながら改善となっております。
- キャッシュフローは改善傾向にはあるものの、全体としてまだまだ満足できるレベルではありません。第4四半期は例年ビジネスがピークとなりますので、収益の刈り取りに加え、在庫削減、債権回収促進によりキャッシュフロー創出に鋭意取り組んで参ります。
- なお、現金同等物は296億円と必要な手元資金は確保しております。

2023年度 通期業績予想

OKI
Open up your dreams

- 足元の事業環境と各事業の業績動向に加え、資産適正化による投資有価証券売却益などを織り込み、業績予想値を修正。

(単位：億円)			23年度予想	8/10予想比	22年度実績	前年差
パブリックソリューション	売上高	950	△30	957	△7	
	営業利益	35	△5	34	+1	
エンタープライズソリューション	売上高	1,800	+20	1,129	+671	
	営業利益	205	+50	15	+190	
コンポーネントプロダクト	売上高	750	△60	846	△96	
	営業利益	5	△15	16	△11	
EMS	売上高	750	△80	753	△3	
	営業利益	15	△10	23	△8	
その他	売上高	0	±0	5	△5	
	営業利益	△15	±0	4	△19	
消去・本社費	営業利益	△75	±0	△68	△7	
連結合計	売上高	4,250	△150	3,691	+559	
	営業利益	170	+20	24	+146	
	経常利益	155	+30	△3	+158	
	当期純利益	120	+40	△28	+148	

4QTR
前提為替レート
USD：144円
EUR：157円

© Copyright 2024 Oki Electric Industry Co., Ltd.

9/13

- 9ページ、今年度の通期業績予想です。これまでお話した各事業の足許の業績と現時点での事業環境を精査し数値に反映致しました。
- その結果、売上高全体では150億円の下方修正としております。
- 一方で、エンタープライズソリューションの増益効果が全体のマイナスを吸収したことに加え、投資有価証券の売却益などにより、利益項目は各々上方修正となっております。
- 各セグメントの状況について、説明します。(パブリックソリューション、エンタープライズソリューションは10ページの補足資料も参照)
- パブリックソリューションは売上高で約3%の下方修正としましたが、四半期の受注済案件も相応に積み上がり、また特機やネットワークといった領域はほぼ計画通りの進捗を刻む等、事業環境は概ね想定通りで推移しております。
- 一方で、消防、防災などは、どうしても入札の結果に左右されることと、特にミッションクリティカルな大口航空案件等もあり、個別PJの進捗状況などを保守的に見積り今回の修正としております。
- なお、中計3か年の中では24、25年度の駆け上がりが高いと当初より想定しておりますが、道路、消防、防災、特機といった成長領域については受注残も着実に増加中との手ごたえを感じております。
- エンタープライズソリューションは、お陰様でここまで概ね計画通り進捗。工事・保守は期中に入っても需要が強く、結果原価率が改善し大きな増益を実現。
- またハード部門においても、出荷ボリュームの増加、高コスト部材の影響を打ち返すべく昨年より取り組んでいる価格改善が一部奏功。また物量増、プロダクトミックスや業務の効率化を通じた原価低減により利益が大きく増加致しました。

- コンポーネントプロダクツは、先程第3四半期の実績でご説明した通り、サブセグメントの中でプリンター、特に欧州の市況悪化による減収影響が大きく、その実績値を踏まえ年度では売上高で60億円の下方修正としております。
- EMSは上期までは増収増益で推移しておりましたが、先程お話ししたFA・ロボット市場向部品の需要減の影響が第3四半期で他社同様大きくなり、市場回復見込みも来年度以降との想定となったことから数値を保守的に見積り、売り上げを前年並みに下方修正することと致しました。
- 経常利益については、営業利益段階でのプラスに加えて、中国訴訟勝訴による一部適用会計ルールの変更に伴い、従来営業利益ベースで見えていた貸倒引当金関連の計上が営業外利益となったことで約6億円のプラスになりました。それらを含め全体では10億円のプラスとなっています。
- 当期利益は資産適正化を目的とした投資有価証券売却益などの実行済分を特別利益に織り込んだ結果、約10億円のプラスになりました。
- 結びです。前回の決算説明の場で「売上は第3四半期に駆け上がり、ピークは第4四半期となる見通し」と申し上げました。この第3四半期はやや想定外のEMSのダウンサイドリスクもありましたが、全体では年間計画達成に向けて相応の実績を示せたものと考えております。
- 元々OKIは売上利益共に第4四半期に集中する傾向があり、補足資料で巻末にお付けしている通り昨年も第4四半期で72億円の営業利益を積み上げました。今年度は昨年のようなソフトの失敗コストといったマイナス要因も検知されておらず、これまでの原価率改善等の実績も勘案すると今回発表した業績予想値の達成は十分に可能と見ております。
- 無論最後まで気を抜かず今年度の計画達成に向けて万全を期して行くことは不変です。以上、簡単ではございますが、第3四半期の決算説明とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

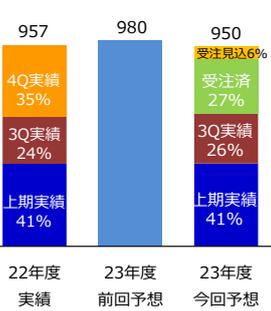
(補足) 2023年度 通期業績予想

- パブリックソリューション
- エンタープライズソリューション

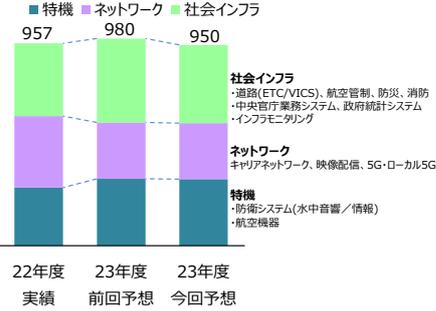
■ パブリックソリューション

- ✓ 領域毎に強弱あるものの、事業環境について期首想定から大きな変化なし。
- ✓ 消防、防災などの入札案件や航空案件の進捗等をふまえ、売上、利益ともに下方修正。
 - ・道路、消防、防災はコロナ影響等からの市場回復もあり、前年対比増加。
 - ・特機、ネットワークは計画通り。
 - ・道路、消防、防災、特機は来期売上に向けた受注残も着実に増加。

売上高 (億円)



領域別売上高 (億円)



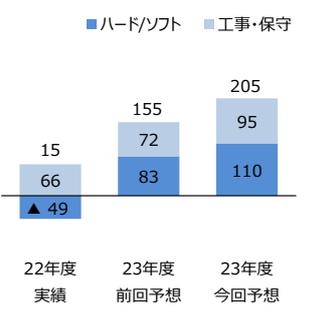
■ エンタープライズソリューション

- ✓ 売上、利益ともに上方修正。
- ✓ 利益については、物量増の他、プロダクトミックス等により増加。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



(補足) セグメント別売上高/営業利益 (四半期別推移)

(単位：億円)		22年度					23年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q
パブリック ソリューション	売上高	193	198	228	337	957	193	200	245
	営業利益	△3	△3	0	40	34	△1	△7	14
エンタープライズ ソリューション	売上高	233	245	297	354	1,129	274	365	515
	営業利益	△16	△11	1	41	15	19	20	66
コンポーネント プロダクツ	売上高	192	218	214	223	846	170	179	185
	営業利益	△1	16	△1	2	16	△8	13	△8
E M S	売上高	162	185	198	209	753	177	188	171
	営業利益	1	4	9	9	23	6	3	△1
その他	売上高	1	1	2	1	5	1	1	1
	営業利益	1	1	1	1	4	△1	△3	△3
消去・本社費	営業利益	△12	△17	△18	△22	△68	△14	△15	△22
連 結 合 計	売上高	781	846	938	1,125	3,691	815	933	1,118
	営業利益	△30	△10	△8	72	24	0	10	48

(補足) 各セグメントの主な製品およびサービス

パブリック ソリューション	<ul style="list-style-type: none">• 道路 (ETC/VICS)、航空管制、防災、消防• 中央官庁業務システム、政府統計システム• 防衛システム (水中音響/情報)• 航空機器• インフラモニタリング• キャリアネットワーク、映像配信、5G・ローカル5G
エンタープライズ ソリューション	<ul style="list-style-type: none">• ATM、現金処理機• 営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末• ATM監視・運用サービス• 金融営業店システム、事務集中システム• 鉄道発券システム、空港チェックインシステム• 製造システム (ERP/IoT)• 工事・保守サービス
コンポーネント プロダクツ	<ul style="list-style-type: none">• AIエッジコンピューター、センサー、IoT NW• PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター• クラウドサービス• LEDプリンター
EMS	<ul style="list-style-type: none">• 設計・生産受託サービス• プリント配線板

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって、実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。